

主要地方道浮羽草野久留米線歩道設置事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

三 明 寺 古 墳 群

— 福岡県久留米市所在遺跡の調査 —

福岡県文化財調査報告書 第 272 集

2020

九州歴史資料館

序

本書は、主要地方道浮羽草野久留米線歩道設置事業に伴い実施した、久留米市田主丸町所在する三明寺古墳群の発掘調査報告書です。

本遺跡は耳納山系の北側斜面に位置し、周辺には中原狐塚古墳や善院古墳群4号墳、隈古墳群3号墳などの装飾古墳を始め、奈良時代から平安時代の竹野郡衙推定地など多くの遺跡が分布する地域です。

今回の調査では、古墳そのものを発見することはできませんでしたが、中世を中心とした遺物が出土した他、厚い土石流堆積層を確認したことから、過去においても大規模な災害がこの地を襲ったことが分かりました。

昨今、福岡県内においても大規模な災害が発生し、甚大な被害をもたらしましたが、先人たちもまた、自然災害と向き合いながら生活していたことが遺跡を通してうかがえます。

本書が教育、研究、文化財愛護思想の普及・定着の一助となれば幸いです。なお、発掘調査に関係した機関や地元の方々を始め多くの方に御協力・御助言いただきました。ここに深く感謝いたします。

令和2年3月

九州歴史資料館

館長 杉光 誠

例 言

1. 本書は、平成 30 年度に主要地方道浮羽草野久留米線歩道設置事業に伴い、九州歴史資料館が実施した三明寺古墳群の発掘調査の記録である。
2. 発掘作業および整理作業、報告書作成は福岡県久留米県土整備事務所の執行委任を受けて九州歴史資料館が実施した。
3. 本書に掲載した遺構写真および遺物写真は岡田諭が撮影した。
4. 本書に掲載した遺構図は岡田が作成した。
5. 出土遺物の整理作業は九州歴史資料館において、進村真之の指導の下で実施した。
6. 出土遺物および図面・写真等の記録類は九州歴史資料館において保管している。
7. 本書に使用した周辺遺跡分布図は、国土地理院ホームページ地理院地図を利用して作成したものである。
8. 本書の執筆と編集は岡田がおこなった。

目次

I はじめに	1
1 調査に至る経緯と調査の経過	1
2 調査の組織	1
II 位置と環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 発掘調査の記録	4
1 概要	4
2 第1トレンチ	5
3 第2トレンチ	6
4 第3トレンチ	6
5 出土遺物	8
IV おわりに	12

挿図目次

第1図 久留米市の位置	2
第2図 周辺遺跡分布図 (1/35,000)	3
第3図 調査区周辺地形およびトレンチ配置図 (1/200)	4
第4図 第1トレンチ実測図 (1/60)	5
第5図 第2トレンチ実測図 (1/60)	6
第6図 第3トレンチ実測図 (1/60)	7
第7図 出土遺物実測図 1 (1/3)	9
第8図 出土遺物実測図 2 (1/3)	11
第9図 出土遺物実測図 3 (1/3)	13

表目次

第1表 土層注記 1	6
第2表 土層注記 2	7
第3表 出土遺物観察表 1	13
第4表 出土遺物観察表 2	14

写真図版目次

写真図版 1	1 第1トレンチ状況 (西から)、2 第1トレンチ東壁、3 第1トレンチ北壁
写真図版 2	1 第2トレンチ (南から)、2 第2トレンチ西壁、3 第3トレンチ第5層上面 (西から)
写真図版 3	1 第3トレンチ第5層中位 (西から)、2 第3トレンチ第5層中位柱穴断面、 3 第3トレンチ第6層上面 (西から)
写真図版 4	1 第3トレンチ東壁、2 第3トレンチ北壁、3 調査終了後工事完了状況 (南から)

I はじめに

1 調査に至る経緯と調査の経過

主要地方道浮羽草野久留米線は、うきは市浮羽町から久留米市御井町を結ぶ主要な幹線道路である。通勤・通学路になっており、バス路線であることや、大型車も含め通行量も多い。しかし、部分的に歩道がなく、路肩も狭いことから歩行者・自転車の交通は極めて危険な状態である。このため歩道の連続性確保と歩行者の安全を図るために歩道設置事業が継続的に実施されている。

今回の調査対象地は、平成 30 年度の歩道設置事業によって影響を受ける王子神社の一部である。当初、王子神社の境内は古墳であると考えられ、富本古墳群（とみもとこふんぐん）として工事に先立ち発掘調査を実施することになった。しかし、改めて久留米市刊行の『柴刈・川会・竹野校区の文化財マップ』を確認した所、富本古墳群は別な場所を指しており、行政区名や字名などの地名を整理すると、三明寺古墳群の範囲に含めるのが適当と判断し、久留米市文化財保護課とも協議の上、今回調査地は三明寺古墳群（さんみょうじこふんぐん）として着手することになった。なお、整理作業・報告書作成は令和元年度実施した。発掘作業の経過は下記の通り。

- 5 月 28 日 久留米県土整備事務所と発掘調査に関する執行委任の協定締結
- 6 月 13 日 第 1 トレンチ掘削、発掘作業開始
- 6 月 21 日 第 1 トレンチ内で土石流堆積物が厚く覆っていることを確認
- 7 月 6 日 埋蔵文化財発掘調査の着手報告（99 条）
- 7 月 12 日 第 2 トレンチ掘削開始
- 7 月 17 日 第 1 トレンチ埋め戻し、第 3 トレンチ掘削開始
- 7 月 26 日 第 2・第 3 トレンチ埋め戻し
- 7 月 31 日 地形測量終了、埋蔵物発見届提出、発掘作業終了（作業日数 23 日）
- 8 月 20 日 終了届提出

2 調査の組織

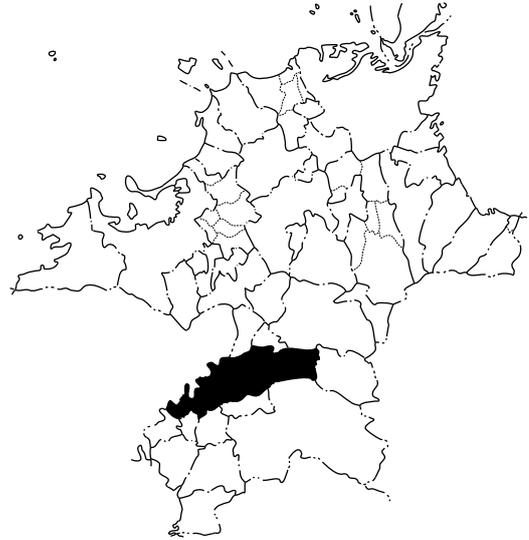
発掘作業・整理作業・報告書作成にかかる関係者は以下の通り。

	平成 30 年度	令和元年度
久留米県土整備事務所		
所長	篠田博邦	篠田博邦
道路維持課長	中村隆年	土井 隆
交通安全課係長	三瀬昭雄	内藤正則
技術主査	関谷安男	服部隆宏
九州歴史資料館		
館長	杉光 誠	杉光 誠
副館長	東 良	安永千里
総務室長	尾籠哲弥	中村満喜子
総務班長	中村満喜子	畑山 智
事務主査	林田朋子	林田朋子
主任主事	原野貴生	古賀知香
主事	具志堅靖知	具志堅靖知
文化財調査室長	吉村靖徳	吉村靖徳
文化財調査室長補佐	伊崎俊秋	伊崎俊秋
文化財調査班長	森井啓次	森井啓次
参事補佐	小川泰樹	小川泰樹
企画主査		進村真之（整理作業担当）
技術主査	岡田 論（発掘作業担当）	岡田 論（報告書作成）

II 位置と環境

1 地理的環境

三明寺古墳群は久留米市田主丸町に所在する。田主丸町独立したは平成 17 年に久留米市と合併する以前は浮羽郡田主丸町であった。耳納山系と筑後川にはさまれた範囲を町域とし、山地から丘陵地、そして沖積平野に至る変化に富んだ地形である。三明寺古墳群は耳納山系から平野に至る傾斜変換点の丘陵地に位置する。耳納山系は耳納山地は北側に断層が走っており、傾斜が急峻である。この急峻な斜面にいくつかの小河川が流れており、小規模な扇状地形を形成している。調査対象地の周辺地形を観察すると耳納山地から流れる小河川の延長上に位置し、等高線は下流側に張り出すように展開する典型的な扇状地形である。



第 1 図 久留米市の位置

2 歴史的環境

遺跡周辺には弥生時代から中世にかけての遺跡が多くある。

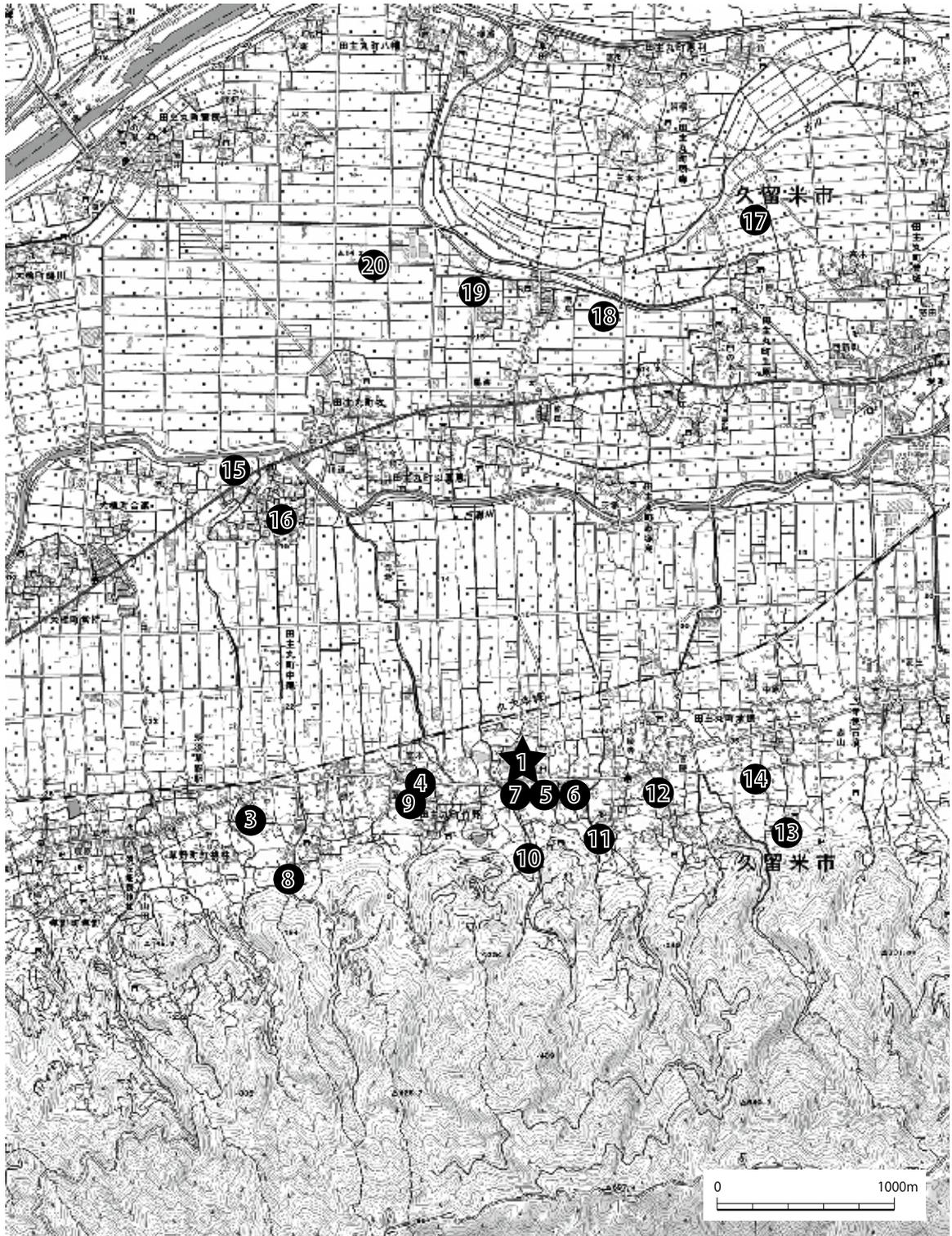
耳納山地の頂部発心山には戦国時代の豪族草野氏の居城で県指定史跡の発心城跡がある。

三明寺古墳群が立地する耳納山地北麓の周辺では弥生土器が多く見つかっている平遺跡、奈良時代から平安時代の集落や「廣国」銘墨書土器が出土した竹野小学校遺跡があり、筑後国司道君首名の子孫が統治に赴任したと伝わる長者の井戸の周辺は竹野郡衙推定地である。また、甕棺が見つかった三明寺遺跡などがある。

これらより山沿いには古墳群が展開しており、隈古墳群、富本古墳群、三明寺古墳群、大慶寺古墳群、善院古墳群、森山古墳群がある。特徴としては裝飾古墳が多く、同心円文と船が描かれた隈 3 号墳、大型の石室に赤色顔料を塗布した善院 4 号墳、同心円文・三角文・船等が描かれた中原狐塚古墳などがある。

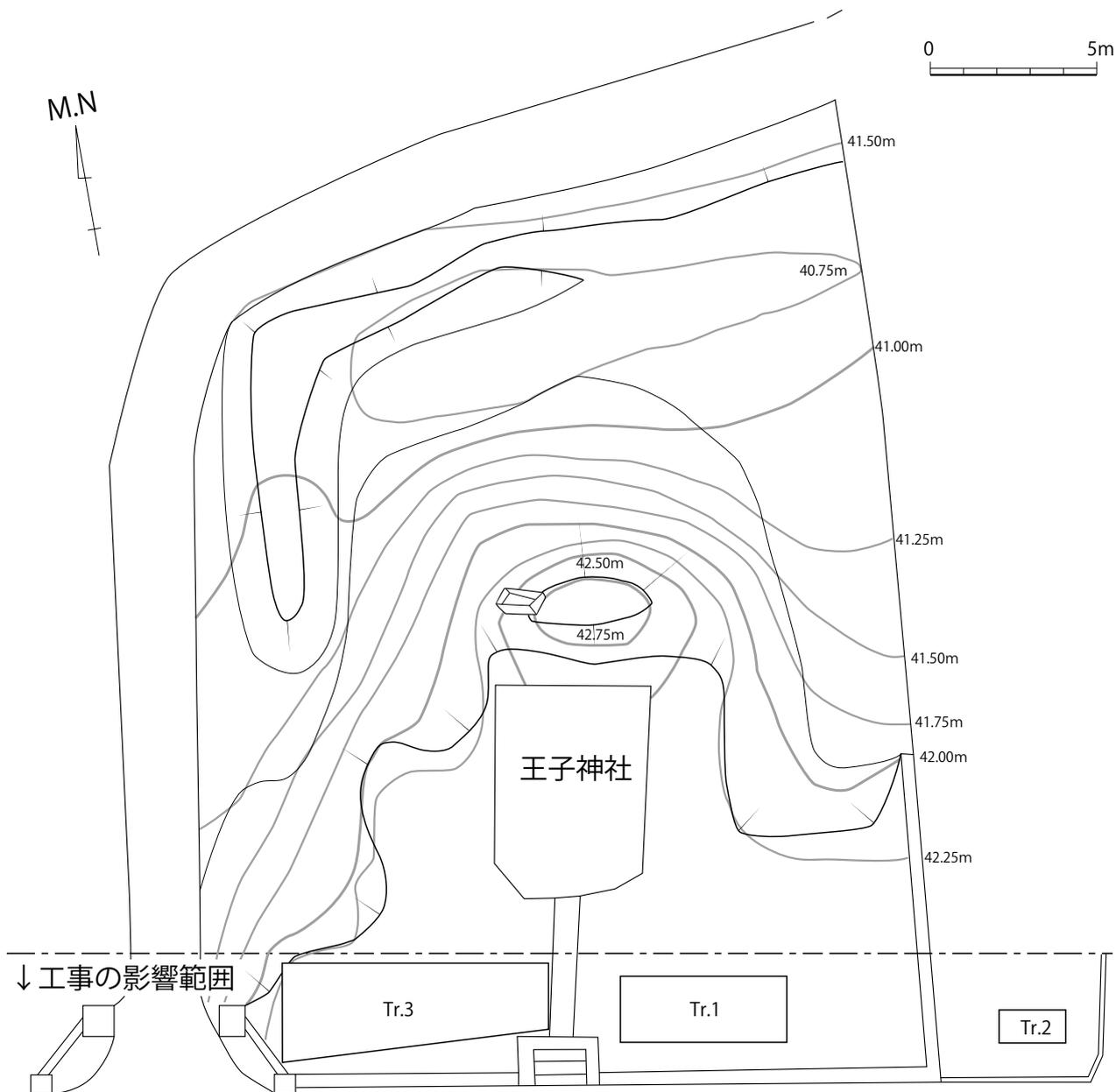
平野部では耳納山北麓と筑後川の間流れる巨勢川南岸には、弥生時代の甕棺や古墳時代の集落が検出された西郷天神免遺跡、古墳時代の溝や鎌倉時代の井戸が見つかった西郷遺跡がある。さらに巨勢川の北側には弥生土器が出土した原東遺跡、弥生土器や古墳時代の須恵器が出土した志床遺跡、唐島西遺跡、大量の弥生土器が出土した筑陽遺跡などがある。

一方、江戸時代の記録には大規模な災害の記録が残されており、享保 5（1720）年、大規模な山汐が発生し、遺跡周辺の竹野村も被災していることがわかる。山汐とは土石流のことで、地理的環境で述べたように耳納山北麓斜面は急峻で河川や谷が氾濫しやすくそのため土石流も頻発していたようだ。このことは現代でも同様で、昨今の豪雨の時は同様のな被害が発生が危惧される。昨今、福岡県でも気候変動による豪雨災害が発生する中で、過去の災害記録に関しては文献資料のみならず埋蔵文化財も貴重な資料になり得る。



1. 三明寺古墳群（今回調査地） 2. 発心城跡 3. 平遺跡 4. 竹野小学校遺跡 5. 長者の井戸
 6. 竹野郡衙推定地 7. 三明寺遺跡 8. 隈古墳群 9. 富本古墳群 10. 三明寺古墳群
 11. 大慶寺古墳群 12. 善院古墳群 13. 森山古墳群 14. 中原狐塚古墳 15. 西郷天神免遺跡
 16. 西郷遺跡 17. 原東遺跡 18. 志床遺跡 19. 唐島西遺跡 20. 筑陽遺跡

第2図 周辺遺跡分布図 (1/35,000)

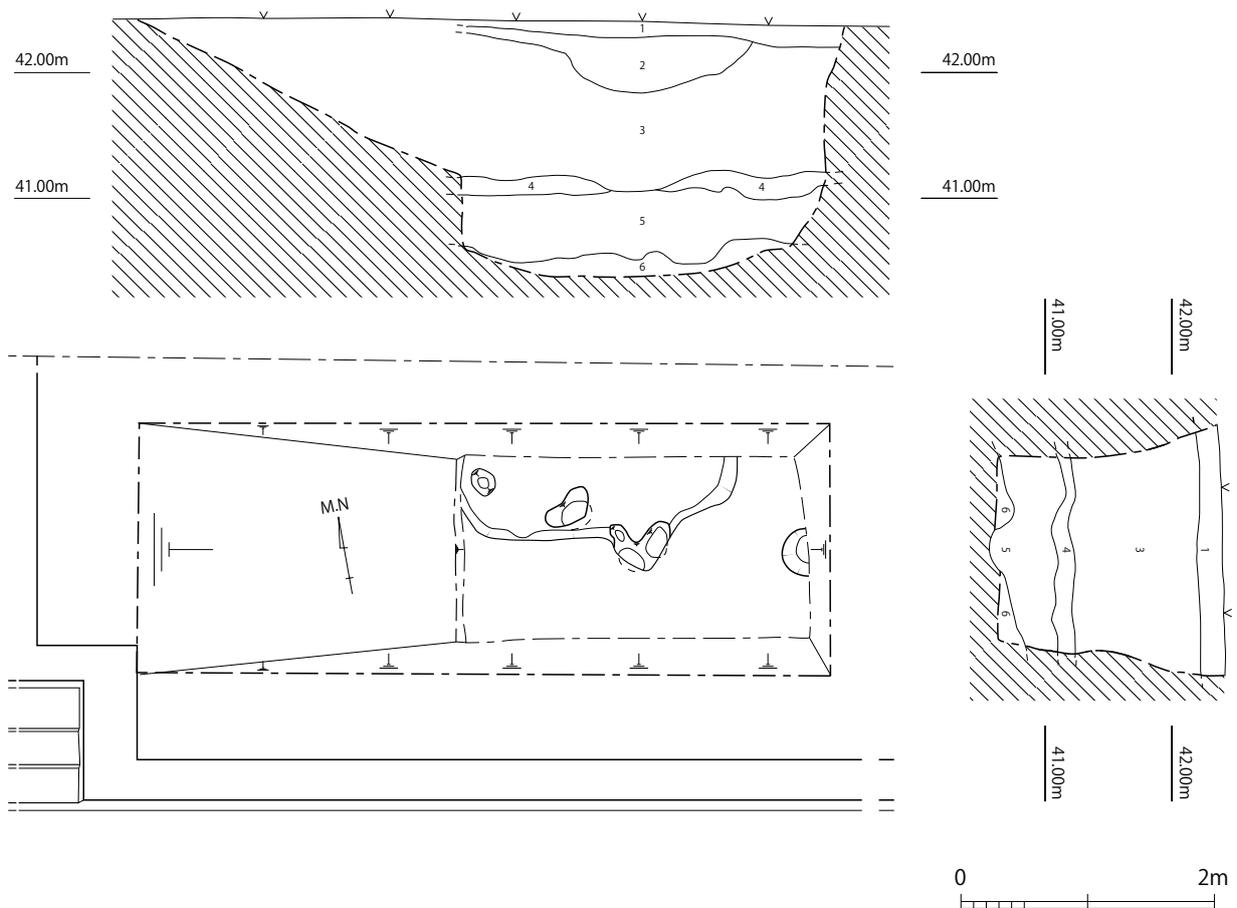


第3図 調査区周辺地形およびトレンチ配置図 (1/200)

III 発掘調査の記録

1 概要

調査対象地は王子神社の境内の内、道路に接する南側で幅約5mの範囲である。現況は社殿を中心に盛り上がった地形が認められるが、調査範囲は道路面との比高差はあるものの整地されて平坦である。また、調査範囲の石垣や石段、コンクリート製の参道は工事で撤去するため、これらを利用してトレンチを設定した。境内の参道東側を第1トレンチ、境内の外東側を第2トレンチ、参道西側を第3トレンチと呼称する。なお、王子神社の西側には旧竹野中学校の門柱があるが、工事後はそのまま北側に移築される。そのため、現況の位置を第3図にあるように記録した。



第4図 第1トレンチ実測図 (1/60)

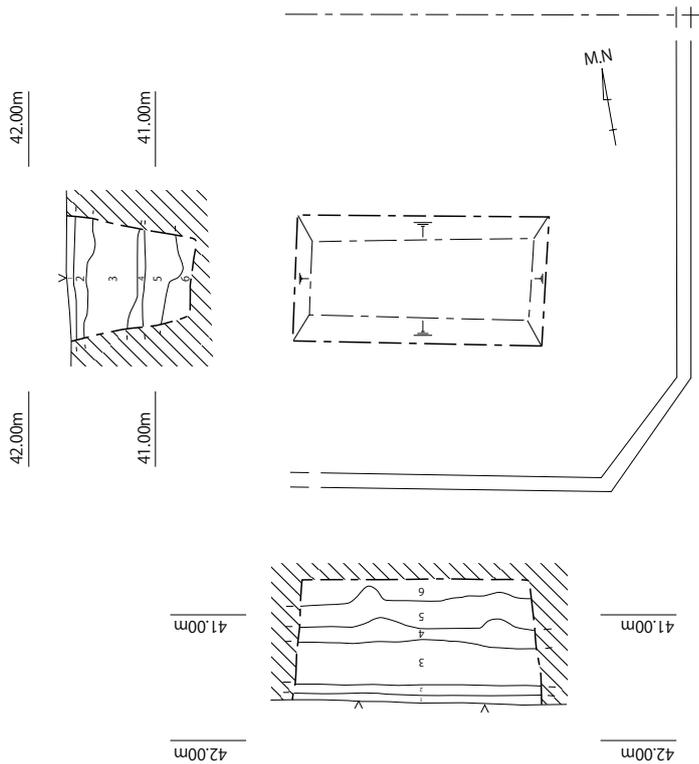
2 第1トレンチ

第1トレンチの規模は東西5.5m、南北2.0m、最大深度は1.8mである。トレンチの西側は進入用の斜路を付けたため、第6層上面を確認できたのはトレンチ東側2.7m×1.4mの範囲である。

層序は、第1層が表土、第2層が客土、第3層は土石流堆積物、第4・5層が扇状地堆積物である。第6層が基盤層である。

第1、2層には現代遺物が含まれており、層形成時期は新しい。第3層は小さいものから人力で移動できない大きさまで大小様々な礫が密に混じり、向きも不規則で人為的な配列は認められない。層の状況や周辺住民からの聴取り、久留米市が周辺で実施した試掘調査の結果を参考にして、この第3層は土石流堆積物であると判断した。第4層は含まれる礫の量が少なくなるが、主たる碎屑物は第3層と変わらない。第5層は第4層に似るが褐色土の粒が斑に混じる。第3層は土第6層は北側に向かって傾斜し、遺物はなく、明確な遺構は確認されなかった。

遺物は第3～5層から細片化がした中世土師器を主体とし、弥生から古墳時代の土師器、須恵器の破片が出土した。遺物量は第3・4層に比して第5層は少なく、また、下位層ほど中世土師器の割合が低くなる傾向がある。第4層からはほぼ完形の中世土師器坏(第7図2)が出土したが、細片化した土器片に混じって出土しており、原位置を保ったものではない。また、白磁片(第9図8)の他、図化できないが黒色土器(両黒)、製塩土器のような破片も見受けられる。



第1表 土層注記1

Tr.	層番号	層名	備考
1	1	暗褐色土	表土
1	2	灰白色砂質土	客土
1	3	暗褐色混礫土	土石流堆積物
1	4	暗褐色混礫土	扇状地堆積物、 礫少ない
1	5	暗褐色混礫土	扇状地堆積物、 褐色土粒を斑に含む
1	6	褐色混礫土	基盤層、無遺物層
2	1	淡褐色土	耕作土
2	2	赤褐色土	客土
2	3	暗褐色混礫土	土石流堆積物
2	4	暗灰褐色土	扇状地堆積物
2	5	暗褐色土	扇状地堆積物、 褐色土粒を斑に含む
2	6	褐色混礫土	基盤層

第5図 第2トレンチ実測図 (1/60)

3 第2トレンチ

第2トレンチを設定した場所は、王子神社境内から約0.7m低い位置にあり、調査前は畑であった。トレンチの規模は南北1.0m、東西2.0m、掘削深度は1.0mである。

層序は第1層が作土、第2層が客土、第3層が土石流堆積物、第4・5層は扇状地堆積物、第6層は基盤層である。第1・2層は耕作に関わる層で形成時期は現代。第3～6層は第2トレンチと同様である。第3層の厚さが第1トレンチより薄いのは耕作以前に切り下げられたからである。第6層上面で遺構は確認されなかった。

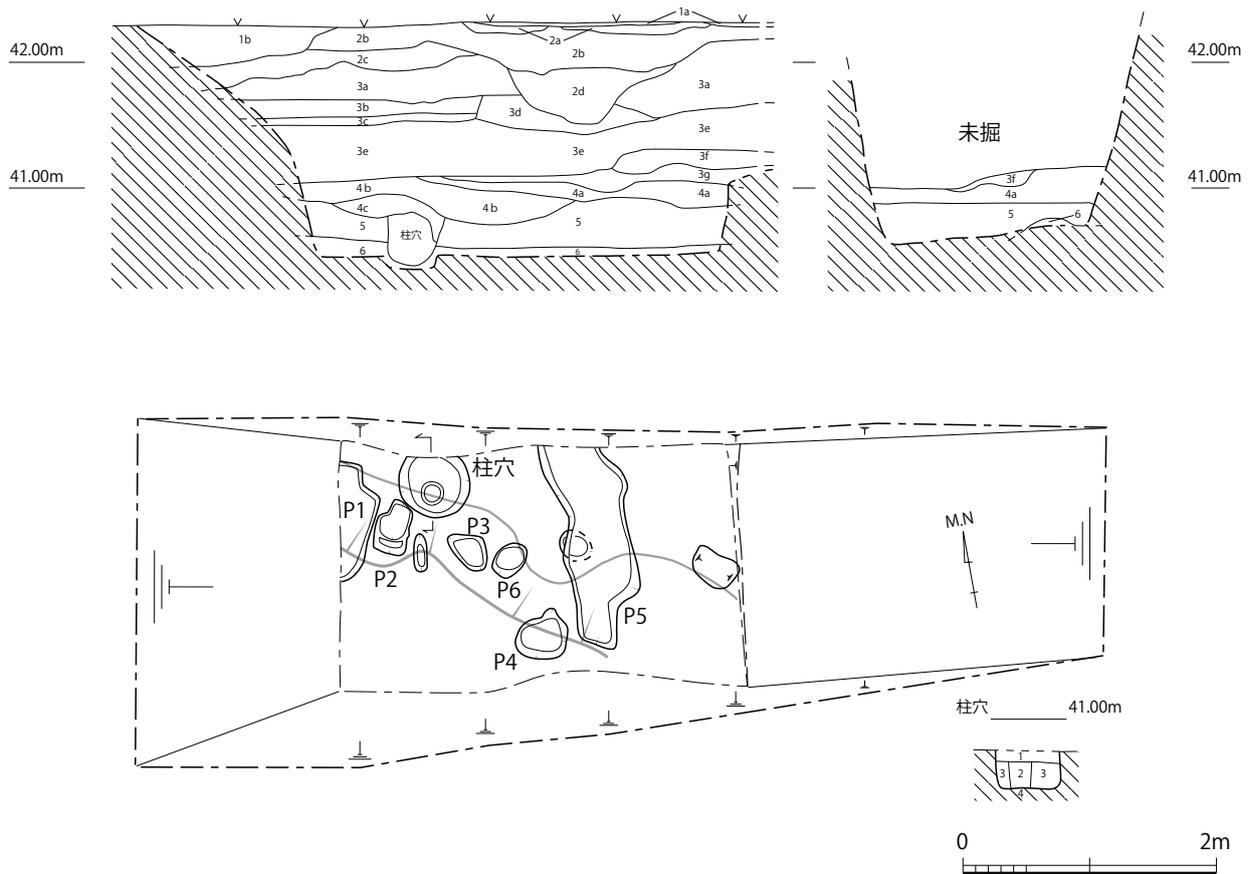
遺物の出土傾向は第1トレンチと同様である。第9図10の近代磁器は第3層上面から出土したが、第3層が削られていることから削平後の時期を示す。

4 第3トレンチ

第3トレンチの規模は南北2.8m、東西7.7m、掘削深度は1.9mである。掘削深度が深いため、トレンチの壁面に傾斜をつけざるを得ず、以降検出できた範囲はトレンチ中央やや西よりの南北2.0m、東西3.2mの範囲である。

基本層序は第1・2トレンチと同様であるが、より細かく分層できるため、基本層序(数字)+細分(アルファベット小文字)で表記する。

第1・2層は第1トレンチと同様である。第3層は礫の粗密や有無をもとにa～gまで細分化できる。第3b・c層は礫を含まないが、土石流堆積物が上下にあり、b・cの境界面は乱れておらず、土層が塊で流れてきた印象を受ける。第4層の主たる碎屑物は暗褐色土で、aが礫混じりの層で、b・



第6図 第3トレンチ実測図 (1/60)

第2表 土層注記2

Tr.	層番号	層名	備考	Tr.	層番号	層名	備考
3	1a	暗褐色土	表土	3	3g	暗褐色混礫土	土石流堆積物、 礫多い
3	1b	暗褐色土	樹根による攪乱	3	4a	暗褐色混礫土	扇状地堆積物
3	2a~2d	含現代遺物暗褐色土	-	3	4b	暗褐色土	扇状地堆積物
3	3a	暗褐色混礫土	土石流堆積物、 礫多い	3	4c	黒褐色土	柱穴覆土
3	3b	暗褐色土	土石流堆積物	3	5	淡褐色土	扇状地堆積物、 褐色土粒を斑に含む
3	3c	暗灰色土	土石流堆積物	3	6	明褐色混礫土	基盤層
3	3d	暗褐色混礫土	土石流堆積物、 礫少ない	柱穴 1	1	含炭粒黒褐色土	= 第4c層
3	3e	暗褐色混礫土	土石流堆積物、 礫多い	柱穴 2	2	灰褐色土	柱痕跡、縮まりなし
3	3f	暗褐色混礫土	土石流堆積物、 礫少ない	柱穴 3	3	明褐色土	柱掘方埋土、 第6層由来
				柱穴 4	4	明褐色混礫土	= 第6層

cは混じらない。第5層は扇状地堆積物で主たる碎屑物は淡褐色黒褐色土の粒が斑らに混じる。第5層上面で柱穴1基と不正形の穴が8基を検出した。柱穴は柱掘方が直径50cm、深さ30cmの円形で、柱痕跡は直径約20cmである。柱穴は第4c層に覆われており、柱掘方埋土は第6層由来の土である。遺物は出土しなかった。P6の埋土は黒褐色土であったが、他の穴の埋土は第4層である。第5層上面の凹みかもしれない。深さはいずれも10cm程度と浅い。第6層は第1トレンチと同様北に向かって傾斜する。

遺物の出土傾向は他のトレンチと同様である。図化はできないものの中には第3層から黒曜石、第4~5層には形状不詳の鉄製品や赤色顔料付着土器、頸部に突帯のある土師器片が出土した。

5 出土遺物

今回の調査で遺構に伴う遺物が極僅かであるため、種別ごとに報告する。中世土師器は口径あるいは復元口径が 8.0cm 程度を目安に、大きいものを坏、小さいものを小皿に分類した。細分類は大宰府史跡昭和 55 年度概報に依る。

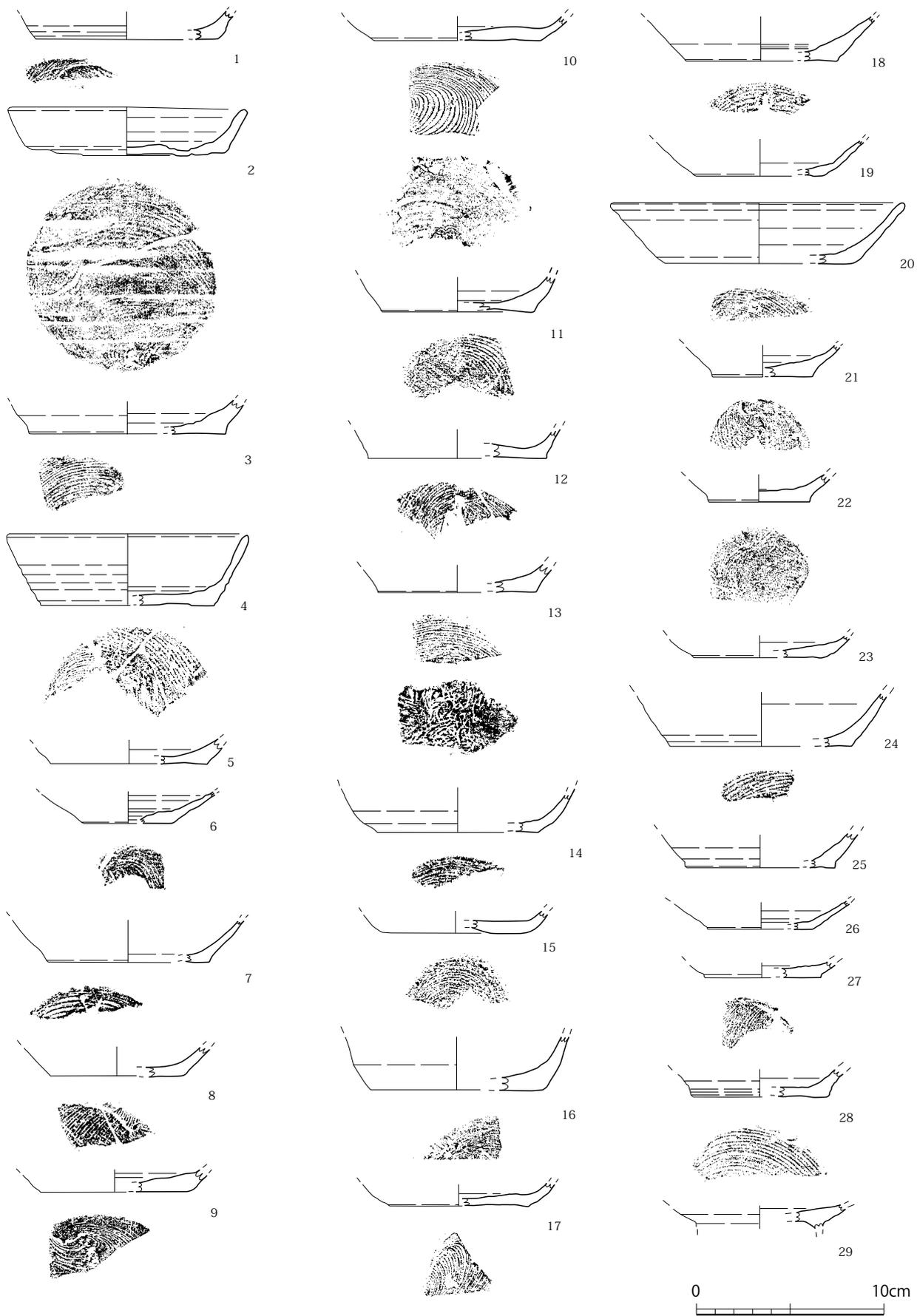
第 7 図は中世土師器坏である。

1～15 は第 1 トレンチから出土した。1 は第 3 層下部出土の坏 a である。2 は第 4 層中から出土したほぼ完形の坏 a である。底部には回転糸切痕に板状圧痕が重なる。3～14 は第 4 層から出土した。6 は底径が口径に比して小さい坏 b である。磨滅しているため詳らかでないが、底部中央に内外面から穿孔したような箇所がある。8～13 は残存部分の径から坏と判断した。14 は第 5 層出土で内面に鼠が齧ったような痕跡がある。15～27 は第 3 トレンチ第 5 層出土である。15 の残存径は 8.6cm だが、坏であると推定される。16 は底部が厚い。17 はほぼ底部のみ破片だが、残存径が 10.3cm であり、坏とした。18～20 は坏 a、21・22 は残存径が 8.0cm 前後であるが、体部の伸び方から推せば坏 b であろう。23～26 は残存径から坏であろう。27 はほぼ底部のみの破片だが、体部の伸び方から推せば坏であろう。28 は採集資料である。29 は第 1 トレンチ第 4 層から出土した。口径が 8.0cm を超えると考えられるため高台がつく坏 c であろう。

第 8 図は中世土師器小皿、あるいは坏か小皿か判別が難しいものである。

1～8 は第 1 トレンチから出土した。1 は第 3 層下部から出土した。復元底径は 5.4cm と小さく小皿と考えられるが坏である可能性もある。2～8 は第 4 層から出土した。2 は復元底径が 5.0cm と小さく小皿と考えられるが、坏である可能性もある。3 は復元底径が 5.6cm、底部の厚さは 9mm とやや厚い。復元底径から小皿と考えられるが坏である可能性もある。4 は復元底径が 7.6cm とやや大きいが、体部の立ち上がりから口径を推せば小皿であろうか。5 は復元口径が 8.4cm、器高は 0.7cm の小皿である。底部の回転糸切痕に板状圧痕が重なる。6 は復元底径 4.5cm、小皿であろうか。7 は復元口径 6.8cm、復元底径 4.0cm、器高 1.7cm、器厚 3.5mm の小皿である。8 は復元底径 6.6cm、復元口径 8.2cm、器高 2.1cm、器厚は最大で 7mm、底部がやや凹む小皿である。

9～49 は第 3 トレンチから出土した。9～16 は第 3 層下部から出土した。9 は復元底径 4.3cm、器厚 6mm、復元底径から推せば小皿であろう。10 は復元底径 4.8cm、器厚 7mm、復元底径から推せば小皿であろう。11 は復元底径 4.8cm、小皿と考えられるが坏 b の可能性もある。12 は復元底径 5.9cm、底部の器厚 8mm、小皿であろう。13 は復元口径 5.2cm、器厚 7mm、復元底径から推せば小皿であろう。14 は復元底径 6.2cm、底部の器厚 1.0cm、ほぼ底部のみの破片だが、坏である可能性もある。15 は復元底径 5.3cm、底部最大器厚 8mm、中央が凹む底部の破片であるが、坏である可能性もある。16 は復元底径 6.1cm、器厚は 8mm。ほぼ底部のみの破片だが、坏である可能性もある。底部の回転糸切痕の上に板状圧痕が重なる。17～20 は第 4 層から出土した。17 は復元底径 6.0cm、器厚 4mm。器厚から推せば小皿であろう。18 は底径 3.6cm、器厚 4mm、底部のみの破片である。小皿あるいは坏 b であろうか。19 は復元底径 3.2cm、器厚 7mm、底部のみの破片である。18 に比して器厚が厚い。小皿あるいは坏 b であろうか。20 は復元底径 5.4cm、器厚 8mm、ほぼ底部のみの破片で、坏 b の可能性がある。21 は P3 から出土した。復元底径 4.0cm、復元口径 4.9cm、器高 9mm の小皿である。22 は P5 から出土した。復元底径 4.0cm、復元口径 6.8cm、器厚 4～5mm の小皿である。23～27 は重機掘削時に出土した。23 は復元底径 4.8cm、



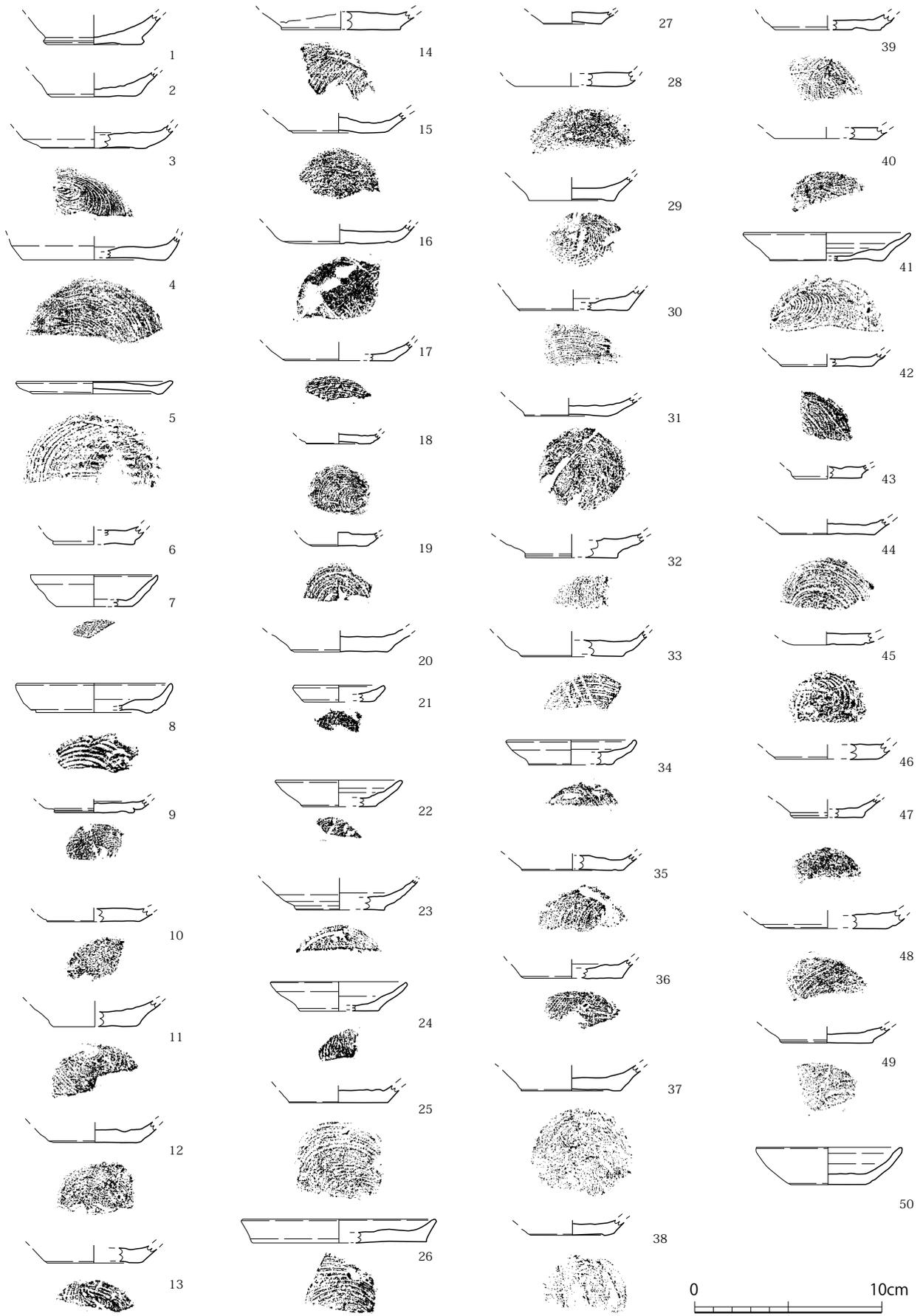
第7图 出土遺物実測図1 (1/3)

底部の器厚 7mm、体部の器厚 3mm。口径が 8cm 前後に収まると考えられるため、小皿であろう。24 は復元底径 4.4cm、復元口径 7.3cm、器高 1.3cm、器厚 3～4mm の小皿である。25 は復元底径 5.2cm、器厚 7mm、ほぼ底部のみの破片であるが、坏である可能性もある。26 は復元底径 9.2cm、復元口径 10.3cm、器高 1.2cm、底部の器厚にばらつきがあるが概ね 6mm である。底部の残存率は 1/6 程度であり、底径の復元には若干躊躇するが、小皿であろう。27 は復元底径 3.0cm、底部の器厚 5mm、底部の破片で粘土にひびが入る。復元口径から推せば小皿であろう。28～33 は第 5 層上部から出土した。28 は復元底径 6.0cm、底部の器厚 8mm、底部のみの破片であるが、坏である可能性もある。29 は復元口径 4.6cm、底部の器厚 6mm、体部の器厚 3mm、ほぼ底部のみの破片であるが、坏 b である可能性もある。30 は復元底径 6.0cm、底部の器厚 7mm、ほぼ底部のみの破片であるが、坏である可能性もある。31 は底径 4.6cm、底部の器厚 6mm、体部の器厚 4mm、ほぼ底部のみの破片であるが、坏である可能性もある。32 は復元底径 5.0cm、底部の器厚 1.0cm、体部の器厚 5mm、底部と体部外面の境目に段がつき、内湾気味に伸びると考えられる。坏である可能性もある。33 は復元底径 5.5cm、底部の器厚 8mm、体部の器厚 3mm、底部と体部外面の境目に緩やかな段がある。底部には回転糸切痕の上に板状圧痕が重なる。坏である可能性もある。34～49 は第 5 層から出土した。34 は復元底径 4.5cm、復元口径 6.9cm、器高 1.4cm、底部の器厚 7mm、体部の器厚 3mm の小皿である。35 は復元底径 5.4cm、底部の器厚 8mm、体部の器厚 4mm、ほぼ底部のみの破片である。坏である可能性もある。36 は復元底径 5.4cm、底部の器厚 7mm、ほぼ底部のみの破片である。坏である可能性もある。37 は復元底径 5.4cm 底部の器厚 6mm、体部の器厚 5mm ほぼ底部のみの破片である。坏である可能性もある。38 は底径 4.5cm、底部の器厚 6mm、底部のみの破片である。坏である可能性もある。39 は復元底径 6.0cm、底部の器厚 5mm、体部の器厚 5mm、ほぼ底部のみの破片である。坏である可能性もある。40 は復元底径 5.6cm、底部の器厚 6mm、底部のみの破片である。坏である可能性もある。41 は復元底径 6.1cm、復元口径 9.0cm、器高 1.5cm の小皿 a である。底部中央は器厚が薄く、3mm 以下で、回転糸切痕が残る。42 は復元底径 5.0cm、底部の器厚 6mm、体部の器厚 4mm、ほぼ底部のみの破片である。坏である可能性もある。43 は復元底径 3.7cm、底部の器厚 6mm、体部は若干残存するが、底部との境目に緩やかな段がつく。小皿と考えられるが、坏 b である可能性もある。44 は復元底径 5.2cm、底部の器厚 6mm、体部の器厚 4mm、ほぼ底部のみの破片である。坏である可能性もある。45 は底径 4.0cm、器厚 6mm、底部のみの破片である。内外面共に著しく磨滅している。復元底径から推せば小皿であろうか。46 は復元底径 5.8cm、器厚 8mm、底部のみの破片である。残存状況が悪いため、器種の特定は難しい。47 は復元底径 4.0cm、底部の器厚 5mm、体部の器厚 3mm、底部と体部の境目に緩やかな段がつく。小皿であろうか。48 は復元底径 6.6cm、底部の器厚 8mm、底部のみの破片である。坏である可能性もある。49 は復元底径 5.0cm、底部の器厚 5mm、体部の器厚 4mm、ほぼ底部のみの破片である。坏である可能性もある。

50 は採集資料である。底径 4.4cm、復元口径 7.8cm、器高 2.1cm、底部の器厚 6mm、体部の器厚 4mm の小皿 b である。

第 9 図は中世土師器坏・小皿以外の遺物である。

1 は第 2 トレンチ第 3 層から出土した。復元底径 7.1cm の弥生土器甕の底部である。底部は平底、器面調整は外面が縦方向のハケ目、内面が底部付近に指頭圧痕がある。2 は採集資料である。復元



第8図 出土遺物実測図2 (1/3)

口径 14.7cm、復元底径 6.0cm、器高 8.0cm の弥生土器鉢である。口縁部は内湾し、底部は平底、外面は底部付近に黒斑があり、内面は磨滅しており器面調整は不明である。3 は第 2 トレンチ第 5 層から出土した。弥生土器の甕あるいは鉢であろうか。口縁部はやや外反し、端部は平坦である。器面調整は体部外面が縦方向のハケ目、内面は口縁部が横方向のハケ目、体部はナデ調整である。4 は弥生土器の甕あるいは鉢であろうか。口縁部はやや内湾し、端部は丸い。器面調整は内外面共に縦方向のハケ目である。外面は黒化している。5 は第 3 トレンチ第 5 層下部から出土した。黒色土器（内黒）の椀である。口縁部はやや外反し、端部は丸い。内面にミガキがあり、口縁部にネズミが齧ったような痕跡がある。口縁部の形状から 10 世紀代の九州系Ⅳ類であろう。6・7 は第 3 トレンチ第 3 層下部から出土したメンコ状の土製品で、土師器坏あるいは小皿の体部を打ち欠き、底部のみを利用したものである。6 は直径約 6.0cm で、底部には回転糸切痕に板状圧痕が重なる。7 は直径約 4.5cm で、底部に回転糸切痕が残る。8 は第 1 トレンチ第 5 層から出土した白磁碗の口縁部の破片である。口縁部は直線的で端部は丸い。器厚は 3mm である。釉調は透明、地色は灰白色、器面に貫入はなく、小さな気泡がみられる。9 は第 3 トレンチ第 3 層下部から出土した陶器の口縁部の破片で、器種は皿か。口縁部は外反し、端部は丸い。内外面に淡緑色の釉を施し、内面の一部に白い釉がかかる。10 は第 2 トレンチ第 3 層から出土した型紙摺絵の磁器皿である。11 は第 1 トレンチ第 3 層上面で出土した丸瓦である。凹面凸面ともに燻され、色調は灰色から淡灰色を呈する。12 は第 3 トレンチ第 3 層下部から出土した器種不明の遺物である。器厚 2.8cm、端部は平坦で、残存部位は直線的である。内外面共に淡橙褐色を呈し、とても軽い。13 は第 3 トレンチ P5 から出土した鉄釘である。残存長 4.2cm、身部の厚さは 5mm、断面方形で釘頭は折り返しである。

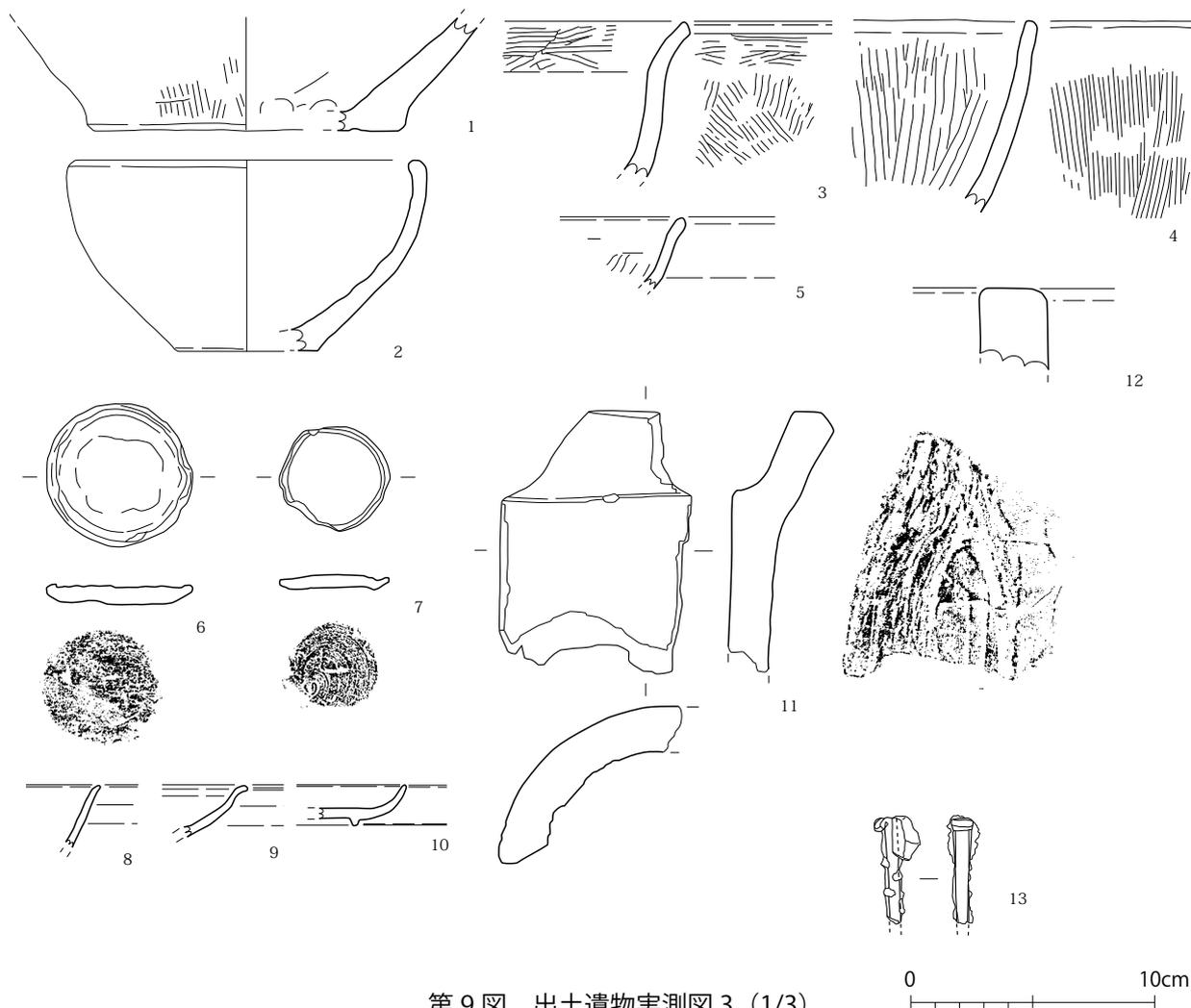
IV おわりに

今回の調査範囲内では当初想定されていた古墳を確認するには至らず、厚い土石流堆積物を確認した。また、土石流堆積物の下位の状況からも扇状地堆積物が堆積しており、調査区周辺は耳納山麓の各所でみられる小規模な扇状地形であることが確認できた。

土石流堆積物の上位では瓦や明治時代の磁器などが出土しており、堆積時期は明治時代以前であろう。土石流堆積物から出土した遺物は中世土師器を主体とするが、磁器片も出土した。小片であるため、時期の特定は難しいが、江戸時代の享保 5（1720）年に大規模な土石流で竹野村が被災した事実から、近世の土石流であった可能性を挙げておきたい。また、土石流堆積物下位の扇状地堆積物やさらに下位で検出した遺構からは中世土師器が出土しており、該期の遺構と考えられる。検出した柱穴は柱痕跡に土石流堆積物が入っておらず、遺構の廃絶と土石流の直接的な関係はない。

一方、今回出土した遺物に占める割合としては中世遺物特に土師器坏や皿が多いことが特徴として挙げられる。小皿 b や坏 b がみられることから 14 世紀後半から 15 世紀にかけての遺物が多い印象を受ける。また、少量ではあるが、黒曜石、弥生土器、古墳時代の土師器須恵器、古代の黒色土器、製塩土器なども出土した。これらは土石流堆積物や扇状地堆積物の供給源である上流側に当該期の遺跡の存在を想起させる。

なお、今回調査範囲は王子神社の境内の一部であり、境内の大部分を占める高まりが古墳であるか否かの判断は難しい。今後の調査の進展に判断を委ねたい。



第9図 出土遺物実測図3 (1/3)

第3表 出土遺物観察表1

※法量の単位は cm、計測部位の精度は◎ = 完存、○ = 復元値、△ = 残存部

挿図	遺物	実測図	種別	器種	出土位置	残存率	精度	口径	精度	底径	精度	器高	備考
7	1	3	土師器	坏 a	Tr.1 第3層下部	底部 1/6	△	11.4	○	9.9	△	2.5	糸切り
7	2	4	土師器	坏 a	Tr.1 第4層 KBM(T.3)-0.6m	完形	◎	12.8	◎	10.4	◎	2.6	糸切り, 板圧痕
7	3	7	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/6	△	12.3	○	10.4	△	1.8	糸切り
7	4	8	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 2/5	○	12.8	◎	9.2	◎	3.9	糸切り, 板圧痕
7	5	11	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/5	△	9.9	○	8.4	△	1.3	-
7	6	13	土師器	坏 b	Tr.1 第4層	底部 1/4	△	9.3	○	4.8	△	1.7	糸切り, 穿孔あり
7	7	14	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/4	△	12.4	○	8.6	△	2.3	糸切り
7	8	15	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/4	△	9.9	○	7.2	△	1.6	糸切り
7	9	16	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/4	△	9.8	○	8.0	△	1.2	糸切り
7	10	18	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/6	△	11.8	○	8.8	△	1.3	糸切り
7	11	19	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/4	△	10.4	○	8.0	△	1.9	糸切り, 板圧痕
7	12	22	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/5	△	11.0	○	9.6	△	1.6	糸切り, 板圧痕
7	13	23	土師器	坏	Tr.1 第4層	底部 1/5	△	10.0	○	8.4	△	1.5	糸切り
7	14	24	土師器	坏	Tr.1 第5層	底部 1/6	△	12.4	○	8.6	△	2.4	糸切り, 内面に鼠の齧り痕?
7	15	54	土師器	坏	Tr.3 第5層上部	底部 2/5	△	9.8	○	6.8	△	1.3	糸切り
7	16	57	土師器	坏	Tr.3 第5層上部	底部 1/6	△	11.9	○	9.2	△	2.9	糸切り
7	17	58	土師器	坏	Tr.3 第5層上部	底部 1/6	△	10.3	○	7.6	△	1.2	糸切り
7	18	59	土師器	坏 a	Tr.3 第5層上部	底部 1/4	△	12.1	○	8.1	△	2.4	糸切り
7	19	64	土師器	坏 a	Tr.3 第5層上部	底部 1/4	△	11.1	○	7.2	△	2.0	-
7	20	65	土師器	坏 a	Tr.3 第5層上部	口縁部一部, 底部 1/6	○	15.7	○	10.0	◎	3.3	糸切り
7	21	68	土師器	坏 b	Tr.3 第5層	底部 1/2	△	8.2	○	5.4	△	1.7	糸切り
7	22	70	土師器	坏 b	Tr.3 第5層	底部 2/5	△	7.5	○	5.4	△	1.5	糸切り, 板圧痕
7	23	75	土師器	坏	Tr.3 第5層	底部 1/3	△	9.6	○	7.2	△	1.2	-
7	24	77	土師器	坏	Tr.3 第5層	底部 1/6	△	13.3	○	10.0	△	2.9	糸切り挿図 遺物

第4表 出土遺物観察表2

挿図	遺物	実測図	種別	器種	出土位置	残存率	精度	口径	精度	底径	精度	器高	備考
7	25	83	土師器	坏	Tr.3 第5層	底部 1/5	△	10.5	○	8.0	△	1.9	糸切り?
7	26	85	土師器	坏	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	9.4	○	5.8	△	1.5	-
7	27	88	土師器	坏	Tr.3 第5層	-	△	7.7	○	6.2	△	0.9	糸切り
7	28	92	土師器	坏	採集等	底部 2/5	△	8.8	○	7.4	△	1.5	糸切り
7	29	20	土師器	坏c	Tr.1 第4層	高台部 1/5	△	9.3	△	6.7	△	1.3	-
8	1	2	土師器	小皿?	Tr.1 第3層下部	底部 1/2	△	7.1	○	5.4	△	1.7	底部がデ消し
8	2	5	土師器	小皿?	Tr.1 第4層	底部 1/4	△	6.6	○	5.0	△	1.3	板圧痕
8	3	6	土師器	小皿?	Tr.1 第4層	底部 1/5	△	8.4	○	5.6	△	1.2	糸切り
8	4	9	土師器	小皿?	Tr.1 第4層	底部 1/2	△	9.1	○	7.6	△	1.3	糸切り
8	5	10	土師器	小皿	Tr.1 第4層	全体の1/2	○	8.4	○	6.9	◎	0.7	糸切り, 板圧痕
8	6	12	土師器	小皿?	Tr.1 第4層	底部 2/5	△	5.4	○	4.5	△	1.0	-
8	7	17	土師器	小皿	Tr.1 第4層	口縁部 1/6	○	6.8	○	4.0	◎	1.7	糸切り
8	8	21	土師器	小皿	Tr.1 第4層	口縁部 1/6, 底部 1/4	○	8.3	○	6.6	◎	1.6	糸切り
8	9	29	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 1/2	△	6.0	○	4.3	△	0.7	糸切り
8	10	30	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 1/3	△	3.1	○	4.8	△	0.8	糸切り
8	11	31	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 1/2	△	7.0	○	4.8	△	1.4	糸切り
8	12	32	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 2/5	△	6.5	○	5.9	△	1.1	糸切り
8	13	33	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 1/3	△	6.6	○	5.2	△	1.0	糸切り
8	14	34	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 1/4	△	7.8	○	6.2	△	1.0	糸切り
8	15	35	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 2/5	△	7.1	○	5.3	△	1.1	糸切り
8	16	37	土師器	小皿?	Tr.3 第3層下部	底部 1/3	△	7.9	○	6.1	△	1.1	糸切り, 板圧痕(特徴的)
8	17	41	土師器	小皿?	Tr.3 第4層	底部 1/5	△	7.8	○	6.0	△	1.0	糸切り
8	18	42	土師器	小皿?	Tr.3 第4層	底部 3/4	△	2.2	○	3.6	△	0.6	糸切り
8	19	43	土師器	小皿?	Tr.3 第4層	底部 1/2	△	2.1	○	3.2	△	0.8	糸切り
8	20	44	土師器	坏?	Tr.3 第4層	底部 1/4	△	7.4	○	5.4	△	1.2	-
8	21	45	土師器	小皿	Tr.3P5	口縁部一部, 底部 1/4	○	4.9	○	4.0	◎	0.9	糸切り
8	22	46	土師器	小皿	Tr.3P5	口縁部一部, 底部 1/4	○	6.3	○	4.0	◎	1.4	糸切り
8	23	48	土師器	小皿?	Tr.3BH 掘削時	底部 1/3	△	8.3	○	4.8	△	1.7	糸切り
8	24	49	土師器	小皿	Tr.3BH 掘削時	口縁部 1/10, 底部 1/6	○	7.3	○	4.4	◎	1.6	糸切り
8	25	50	土師器	坏?	Tr.3BH 掘削時	底部 1/3	△	6.4	○	5.3	△	1.0	糸切り
8	26	51	土師器	小皿?	Tr.3BH 掘削時	口縁部 1/6	○	10.4	○	9.2	◎	1.2	糸切り
8	27	52	土師器	小皿?	Tr.3BH 掘削時	底部 1/2	△	4.4	○	3.0	△	0.7	糸切り?
8	28	55	土師器	坏?	Tr.3 第5層上部	底部 1/2	△	7.0	○	6.0	△	0.8	糸切り
8	29	56	土師器	坏?	Tr.3 第5層上部	底部 1/4	△	6.4	○	4.6	△	1.3	糸切り
8	30	60	土師器	坏?	Tr.3 第5層上部	底部 1/4	△	7.6	○	6.0	△	1.1	糸切り
8	31	61	土師器	坏?	Tr.3 第5層上部	底部ほぼ完存	△	6.8	◎	4.6	△	1.0	糸切り?
8	32	62	土師器	坏?	Tr.3 第5層上部	底部 1/4	△	7.7	○	5.0	△	1.3	糸切り
8	33	63	土師器	坏?	Tr.3 第5層上部	底部 1/3	△	8.0	○	5.5	△	1.4	糸切り, 板圧痕
8	34	66	土師器	小皿	Tr.3 第5層	口縁部一部, 底部 1/3	○	6.9	○	4.5	◎	1.4	糸切り
8	35	67	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 2/5	△	6.9	○	5.4	△	0.9	糸切り
8	36	69	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	6.5	○	5.4	△	1.0	糸切り, 板圧痕
8	37	71	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 3/5	△	7.4	○	5.4	△	1.4	糸切り, 板圧痕
8	38	72	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 3/5	△	5.4	○	4.5	△	0.8	糸切り, 板圧痕
8	39	73	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	7.1	○	6.0	△	0.6	糸切り
8	40	74	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	6.5	○	5.6	△	0.6	糸切り
8	41	76	土師器	小皿	Tr.3 第5層	口縁部一部, 底部 1/2	○	9.0	○	6.1	◎	1.5	糸切り
8	42	78	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	6.3	○	5.0	△	0.7	糸切り, 板圧痕
8	43	79	土師器	小皿?	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	4.4	○	3.7	△	0.7	糸切り?
8	44	80	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 2/5	△	6.6	○	5.2	△	0.9	糸切り
8	45	81	土師器	小皿?	Tr.3 第5層	底部 2/5	△	4.8	○	4.0	△	0.7	糸切り
8	46	82	土師器	?	Tr.3 第5層	底部 1/3	△	6.6	○	5.8	△	0.9	糸切り?
8	47	84	土師器	小皿?	Tr.3 第5層	底部 2/5	△	5.6	○	4.0	△	1.0	糸切り
8	48	86	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	8.2	○	6.6	△	1.0	糸切り
8	49	87	土師器	坏?	Tr.3 第5層	底部 1/4	△	6.6	○	5.0	△	0.9	糸切り
8	50	91	土師器	小皿	採集等	口縁部一部, 底部ほぼ完存	○	7.8	◎	4.4	◎	2.1	-
9	1	27	弥生土器	甗	Tr.2 第3層	底部 1/6	△	18.8	○	7.1	△	4.7	-
9	2	90	弥生土器	鉢	Tr.2 第5層	口縁部片	-	?	-	?	△	6.5	-
9	3	28	弥生土器	甗?鉢?	Tr.3 第5層	口縁部片	-	?	-	?	△	8.0	-
9	4	89	弥生土器	甗?鉢?	採集等	口縁部 1/4, 底部 1/6	○	14.7	○	6.0	◎	8.0	-
9	5	53	黒色土器	椀	Tr.3 第5層上部	口縁部片	△	2.0	-	?	△	3.0	内黒
9	6	36	土師器	メソコ	Tr.3 第3層下部	完形	◎	6.0	◎	4.6	◎	0.7	糸切り, 板圧痕
9	7	38	土師器	メソコ	Tr.3 第3層下部	ほぼ完形	◎	4.5	◎	3.5	◎	0.6	糸切り
9	8	25	白磁	碗	Tr.1 第5層	口縁部片	-	?	-	?	△	2.6	-
9	9	40	磁器	皿?	Tr.3 第3層下部	口縁部片	△	2.6	-	?	△	2.2	-
9	10	26	近代磁器	高台付小皿	Tr.2 第3層	口縁部~高台部片	-	?	△	1.6	◎	1.7	型紙摺繪
9	11	1	瓦	丸瓦	Tr.1 第3層上面	-	-	-	-	-	-	-	近世
9	12	39	不明	不明	Tr.3 第3層下部	-	-	-	-	?	△	3.4	-
9	13	47	鉄製品	釘	Tr.3P5	-	-	-	-	-	-	-	-

写真図版

1 第1トレンチ状況（西から）



2 第1トレンチ東壁



3 第1トレンチ北壁





1 第2トレンチ (南から)



2 第2トレンチ西壁



3 第3トレンチ第5層上面(西から)

1 第3トレンチ第5層中位(西から)



2 第3トレンチ第5層中位柱穴断面



3 第3トレンチ第6層上面(西から)





1 第3トレンチ東壁



2 第3トレンチ北壁



3 調査終了後工事完了状況
(南から)

報告書抄録

ふりがな	さんみょうじこふんぐん							
書名	三明寺古墳群							
副書名	主要地方道浮羽草野久留米線歩道設置事業関係埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	福岡県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第272集							
編著者名	岡田 諭							
編集機関	九州歴史資料館							
所在地	〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3							
発行年月日	令和2(2020)年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
さんみょうじこふんぐん 三明寺古墳群	福岡県 久留米市 田主丸町竹野 192-1,243-2	40203		33° 19′ 21″	130° 39′ 40″	2018.6.13) 2018.7.31	112m ²	開発事業 (道路)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
集落跡 散布地 その他(土石流跡)	弥生時代 古墳時代 中世 近世	柱穴		土師器杯・小皿		調査範囲内では古墳の存在は確認できず、近世の土石流堆積物の下位から中世の遺物を含む遺構を検出した。		

福岡県行政資料	
分類番号	所属コード
JH	2120261
登録年度	登録番号
1	2

福岡県文化財調査報告書 第272集

三明寺古墳群

令和2(2020)年3月19日

発行 九州歴史資料館
〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3

印刷 大同印刷株式会社
〒849-0902
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉 1848-20

